

2022年3月

5 東病棟



「想いを汲み取ることを大切に」

卒後2年目 熊倉 桃子

私は、外科系病棟で、日々、先輩方に支えられながら勤務しています。

1年目の時、ご家族や看護師に対する気づきから、自分の気持ちを出し表すことが出来ない患者様を受け持たせていただきました。はじめの頃は、患者様本人が「何かしたい事を探さなければ」という気持ちが先走り、前のめりになってしまう事がたくさんありました。患者様の声ではなく、自分の思いにばかり目を向けていることに気づきました。先輩方に相談し、患者様と過ごす時間を大事に関わるようになりました。そうすると、患者様から「〇〇したい」「〇〇食べたい」など少しずつ想いを表出してくれるようになりました。患者様の思いを実現に向け、工夫をしていく中で笑顔の時間が少しずつ増えていきました。

その関わりから、「なにかしてあげなければいけない」ではなく、患者様の想いを傾聴していくことが、必要な看護であるとわかりました。関わる時間が短くても、患者様の言葉を受け止めることで、入院により我慢する事がおおい状況であっても、穏やかに笑顔でいられる時間を作ることができたと実感することができました。そして、患者様の「ありがとう」が、私にも勇気を頂きました。この学びや気持ちを忘れずに、少しずつ経験を重ね目標である「想いを汲み取ることのできる看護師」となれるように努力していきたいと思っています。

